

課題名	68 新発生並びに突発性病害虫の発生生態と防除	分類	①
	ダイコンを加害するキタネグサレセンチュウの殺線虫粒剤による防除		
試験研究年次	1年(完了)		
<p>I 目的 ダイコンはキタネグサレセンチュウの加害により、根部表面に中心に黒点のある白濁斑点を生ずるため、被害根は外観が悪く、商品価値が劣る。そこで、取り扱いが容易で、処理の簡便な殺線虫粒剤の防除効果を明らかにし、防除の資料とする。</p>			
<p>II 試験方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 試験場所 : 田川郡添田町、現地農家ほ場、標高約 100m 2 耕種概要 : 品種: 春海、は種: 平成元年10月29日、露地栽培、 3 供試薬剤 : バイデート粒剤、ボルテージ粒剤 4 区制・面積: 1区15.4㎡、2区制 5 散布時期・量・方法: バイデート粒剤は40kg/10aを土壌全面に手まきし、ロータリーで2回以上、20cmの深さに土壌と混和した。同様に、ボルテージ粒剤を40kg/10a処理した。 6 調査方法 : 線虫密度は、ベルマン法により20gの土壌から48時間分離し、薬剤処理前(平成元年10月27日)、処理5日後(11月2日)、30日後(11月27日)及び収穫時(平成2年3月9日)に調査した。なお、土壌の採取深度は地表下約10cmとした。ダイコン根部の被害痕は根部表面50cm²内の数を数えた。収量は15株について茎葉を含む重量を測定した。 			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>10月下旬播きの露地栽培ダイコンにおいて、バイデート粒剤またはボルテージ粒剤を10a当たり40kg土壌全面に混和処理する方法は、キタネグサレセンチュウによるダイコン根部表面の白濁斑点の発生を抑える効果がある。また、粒剤であるため、処理も簡便である。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 ダイコンのキタネグサレセンチュウによる被害防止効果

供試薬剤	処理量 (kg/10a)	被害 株率 (%)	50 cm ² 左のうち		15 株 あたり 収量 (kg)	薬害
			被害 痕 数 (個)	中心部に 黒点のあ るもの (個)		
バイデート粒剤	40	23.4	38.0	5.5	17.3	なし
ボルテージ粒剤	40	46.7	34.0	6.5	15.3	なし
無 処 理	—	100.0	189.5	34.5	14.8	

注) ①被害株率は、1株50cm²の区画中に被害痕の認められる株の割合
②収量は茎葉を含む。

第2表 ダイコンのキタネグサレセンチュウ防除効果

供試薬剤	処理量 (kg/10a)	線虫数 (頭/20g土壌)			
		処理前	5日後	30日後	収穫時
バイデート粒剤	40	22.8	5.3	9.3	8.0
ボルテージ粒剤	40	9.6	2.3	1.8	9.3
無 処 理	—	35.0	40.0	21.3	13.8

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 県野菜病害虫防除基準の指導資料に、バイデート粒剤の使用法を追記し、防除指導を図る。
- 2 バイデート粒剤のダイコンのネグサレセンチュウに対する使用時期は、播種前で、使用回数は1回である。
- 3 ボルテージ粒剤は現在、ダイコンのセンチュウ及びキスジノミハムシに登録申請中である。
- 4 粒剤処理は、播種直前に行い、土壌混和は粒剤と線虫とが接触する機会を大きくするため、ロータリーにより2回以上ていねいに行う。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 ダイコンの被害の品種間差異
- 2 粒剤処理時の土壌のpH、土壌温度及び土壌水分と防除効果の関係

VII 資料名